

平成 22 年度第 1 回永田浜ウミガメ保全協議会

【日 時】 2010年11月17日（水） 19：30～21：30

【場 所】 永田公民館（屋久島町永田）

【議事録】（敬称略）

1. 開会

- ・資料確認

2. 会長選出

環境省：会長の選出について、僭越ながら事務局より提案させていただく。昨年に引き続き、永田集落の区長であり、永田ウミガメ連絡協議会の会長でもある松田氏をお願いしたいと思うがいかがか？

一同：了。

会長：区長任期である3月までとなるが、よろしくをお願いしたい。

3. 議事

1) 今年度ウミガメシーズンの状況報告

- ・ウミガメの上陸・産卵・ふ化等調査結果（資料1-1；NPO法人屋久島うみがめ館）
 - ・昨年と比べ、上陸回数・産卵回数ともに大幅に増加。特に、新規個体が約1000頭と非常に多かった。
 - ・確認個体数は過去最多となったが、上陸回数は2008年の値よりも少なかった。これは2008年よりも産卵率が上がったため、ウミガメ観察ルールができたことで、産卵環境が良くなったためと考えられる。
 - ・テトラポッドや岩場にはまるウミガメが多かった。調査ボランティアは朝5時頃まで調査をし、その後就寝するが、明け方にそうしたウミガメを発見した方から連絡がくるため、救出活動に駆り出され、睡眠時間を確保できない。
 - ・今年は雨が多く、浜に川筋ができたことにより、流出卵が多かった。
 - ・前浜の脱出巣率が上がった。毎年春に実施されている永田川下流の浚渫工事の際、前浜の移植区域の砂を入れ替えてもらった結果と考えられる。
- ・ウミガメ観察会の実施結果（資料1-2；永田ウミガメ連絡協議会）
 - ・期間全体で観光客が6,381名、子ども及び地元住民が326名。総合計が6,707名となっている。
- ・屋久島うみがめ館夜間臨時開館の実施結果（資料1-1；NPO法人屋久島うみがめ館）

- ・ 今年8月22日まで開館した。来館者数は、総合計で1,627名だった。
- ・ **環境省ウミガメふ化環境監視事業の結果**（資料1-3；屋久島自然保護官事務所）
 - ・ 不適切な利用は昨年と比べて、大きく減少した。また、ルール内容が広まっています、23日以降の利用者数が少なくなった。

屋久島観光協会：子どもは何歳までが対象か？

NPO 法人屋久島うみがめ館：屋久島うみがめ館は小学生まで。

永田ウミガメ連絡協議会：観察会は中学生までが子ども。

環境省：前浜のふ化率が下がっているのは何故か？

NPO 法人屋久島うみがめ館：砂の流出が多く、砂の厚みが減った影響かもしれない。

永田ウミガメ連絡協議会：岩場にはまったウミガメの救出については、今後の課題として議論する必要がある。現在のように屋久島うみがめ館ばかりの負担になってはいけません。

NPO 法人屋久島うみがめ館：施設の前に、連絡先として事務局の携帯電話を張り出したが効果がなく、中で眠っている調査員を起こしてしまう。

永田ウミガメ連絡協議会：新聞等をみていると、どこも町や県など行政が救出している。町の職員が行うことはできないだろうか。

環境省：永田浜以外の地域については、町に連絡が来て、救出をしている。永田浜の場合は目の前に屋久島うみがめ館があるので、電話をする前に直接訪れてしまうのだろう。負担が分散するように当協議会の場で検討していきたい。

2) エコツーリズム推進法に基づく利用規制の導入時期について

屋久島町：

平成23年4月1日から法的な利用規制を導入することを目指して手続きを進めてきたが、エコツーリズム推進協議会総会での決定が当初の予定より大幅遅れている。特に大きな問題点になっているのは、縄文杉の立入制限や実施時期についてである。永田浜の法規制導入はどんなに早くても平成24年以降になる。皆様のご意見を伺って素案作成したにも関わらず申し訳ないが、早期実現に向けて鋭意努力していきたい。

環境省：

昨年の予定では全体構想が4月又は5月に策定され、その後、国への認定申請を行う予定だった。その全体構想が11月時点でまだ策定されていない。例え、11月19日に開催される総会で全体構想が策定されたとしても、国への認定申請手続き及び町の条例策定が必要であり、平成23年4月には間に合わない。

今日はそういった状況のなか、来年度の永田浜ウミガメ観察ルールをどうしてい

けばよいか、相談したい。

永田ウミガメ連絡協議会：

- ・永田浜だけで法規制をするのではなく、他の地域も含めた屋久島全体で規制できればいい。永田浜ウミガメ観察ルールの導入後、栗生浜にウミガメを見に行く人が多くなった。他から見れば、永田から栗生に追い出したように見える。
- ・他の浜では、ウミガメに触らせたり、フラッシュで写真を撮らせたりしているとも聞く。

環境省：

永田浜で法規制の検討を進めているのは、永田浜が一番ウミガメの上陸数が多く、重要な場所であるからだけでなく、ウミガメ保護の先進地である永田で取組みを進めることで、屋久島全体にウミガメが大切なものであるということを広めていきたいからである。

永田ウミガメ連絡協議会：

当協議会で議論された内容は町も把握している。永田浜は国立公園なので環境省が取り組んでいるが、他の地域で問題があるのであれば、町としてもきちんと指導してほしい。

屋久島町：

町としても取り組んでいる。栗生の監視員から話も聞いた。監視員の人数が限られているため、全てのことはできないが、自分達がいる間はちゃんと指導しているということだった。

永田ウミガメ連絡協議会：

栗生浜でウミガメに触らせたり、フラッシュ撮影をさせたりしていると観光客から聞いたのだが。

環境省：

その件については、観光客やガイドから屋久島自然保護官事務所にも苦情があった。ただ、写真撮影は法で規制されていない。永田浜ではウミガメ観察ルールで決めているから、やめていただくよう説明できるが、ルールのない他の地域で注意するのは難しい。

今日は、屋久島うみがめ館の会員として、栗生の監視員の方が出席されている。栗生では、観光客が急に増えて困っている面もあると思う。ご意見を伺いたい。

NPO 法人屋久島うみがめ館：

私は、4月20日頃から9月末まで、最低でも夜12時まで、遅いときは翌朝5時又は6時頃まで浜にいる。完全にボランティアでやっており、寝ずに仕事に行くこともある。

永田では何故、観察会でお金をとっている団体がウミガメの保護をしないのか。

1日3時間程度お客を集めて、お金をとるだけなんておかしい。他にもテレビ局

には撮影させるけど、個人には撮影させてもらえないと観光客から聞いている。栗生では人手が足りず、活動に賛同して手伝ってくれる移住者や旅行者と一緒にやっている。それでも、(観光客からは) 1円もお金はもらっていない。20年島を離れ、帰郷した時にウミガメが上陸する浜が全く管理されていない状況だったので、町から許可証だけもらって活動を始めた。

環境省：

カメラ撮影について、以前は永田浜でも撮影をすることができた。ところが、誤ってフラッシュを使ってしまったり、間違っただけにして使う人がいる。そうすると、観察会の参加者同士で険悪な雰囲気になってしまう。そういったことを防ぐために昨年4月、カメラ撮影はしないようルールとして決めた。

永田ウミガメ連絡協議会：

何故、観察会をしているのかを知ってほしい。明け方まで自由に人が入れる状況であれば、永田浜がどうなるか考えてほしい。ウミガメが安心して産卵できる環境になるだろうか。カメラ撮影についても10年以上も撮影することができた。禁止にしたのは最近のこと。それまでにいろんな問題があったから、改善するためにそうした。報道関係者については、報道の自由に配慮し、撮影可能とした。

NPO 法人屋久島うみがめ館：

協力金は違法ではないのか。協力金であれば、金額の設定をしてはいけないのではないか。

環境省：

そういった問題も含めて法規制を検討している。活動に必要なお金を参加費として徴収して、そのお金で観察会の実施体制を整える。持続的に活動を続けるためには必要なことだと思う。

永田ウミガメ連絡協議会：

昔は、酔っぱらい等いろいろな人が来た。調査をするにしても、夜の真っ暗な浜で、酔っぱらいを前に女の子が一人で調査なんかできない。そういった状況にどう対処したら良かったのか。永田浜もいろいろな状況や変遷があって、今を迎えている。

環境省：

永田浜と栗生浜では状況が違う。今は誤解している部分もあると思うが、今後いろんな情報を交換し、出てきた意見を今後に生かせればいい。

屋久島観光協会：

話を伺っていると、栗生では孤島奮闘されているようだ。個人では幾ら頑張っても限界があるし、大変だと思う。栗生でも集落として取り組むように検討されてはどうか。

NPO 法人屋久島うみがめ館：

自分は全体構想策定部会の委員でもあったが、構想の策定が遅れた理由の1つとして、全体構想を策定するには時期尚早であるという意見があった。今日、栗生のお話を伺って、随分状況が違うことを知った。このことを取っても時期尚早なのかもしれない。ウミガメの問題は、永田だけのことではなく屋久島全体の問題。法規制を永田で導入するにしても、屋久島全体におけるウミガメに対する考えの中の1つとして示すものであるべき。もっと島全体でウミガメのことをどうするのかという議論がされてもいいと思う。

永田ウミガメ連絡協議会：

- ・永田でウミガメの保護活動を始めた当初は、区も町も係わり合わなかった。ボランティアで何でもやって、活動を積み上げて、ようやくここまで来た。ウミガメは今や、屋久島の大きな1つの観光になっている。町が里のエコツアーを推進したいのであれば、全部の浜に規制をかけて、監視員を雇って、きちんと保護していかないといけない。監視員には経済的な補償をして、その分講習会をきちんと受けてもらえばいいのではないかな。我々以外に、観察会にお客を連れてくるだけで儲けている人もいる。
- ・永田浜だけで規制をして、他の浜でしなければ、観光客はそっちに流れてしまい、ウミガメの保護ではなくなる。
- ・来年、法規制ができないのであれば、団体枠を受入れないと採算があわず、観察会自体が開催できない。

環境省：

- ・昨年は来年からの法規制導入が前提だったので、来年からは団体は受入れないとしてきたが、法規制自体ができないのであれば、再度検討する必要がある。

NPO 法人屋久島うみがめ館：

- ・協力金についてだが、屋久島では、永田浜だけでなく、白谷雲水峡やヤクスギランド、志戸子ガジュマル園、山岳部保全募金などいろいろな場所で協力金を取られる。屋久島協力金として一括して徴収し、必要なところに分配することができないか。

環境省：

この協議会だけで議論できる課題ではない。これまでも屋久島では、入島税や入島協力金等の導入について話されてきたが、実現には至っていない。

NPO 法人屋久島うみがめ館：山岳部だけでも一括徴収ができないのか。

屋久島町：

- ・法規制が導入された場合、縄文杉登山に係るバスチケットや山岳部保全募金、承認証発行手数料等については一括で徴収する方法を検討している。ヤクスギランドと白谷雲水峡は林野庁が全国展開しているもので屋久島だけでは解決できない。統合に向けた呼び掛けはしているが、まずはできることから解決できるように取

り組んでいるところ。

- ・屋久島全体に規制をかけるべきという議論あるが、これまで屋久島町には、観光に関する基本計画がなかった。エコツーリズム推進法が制定されたことがきっかけで、今回初めて、屋久島の観光についてエコツーリズムを中心とした計画を作ろうとしている。全体構想にはおおむね5年毎に見直すと書かれている。観察のルールも屋久島全体にどこまで適用できるか分からないが、足りない部分があればいろんな意見をいただきながら、見直していけばいいと思う。

NPO 法人屋久島うみがめ館：

全体構想のなかには、観光客やガイド等を守るべきこととして、「屋久島ルール」というものがある。その中には、ウミガメが上陸する浜ではできるだけ写真を撮らないようにしよう等のルールも作られている。屋久島でウミガメ観察ができる体制が整っているのが永田浜しかないから、規制は永田浜だけではあるが、屋久島全体としてはウミガメ観察についてはこうしてくださいと外に向けてきちんと訴えているルールがある。そのルールを宿泊施設やタクシーの運転手等観光事業者も理解して、観光客に伝えていかないと行けない。それを「あっちにいけばウミガメを見られるよ」と案内してしまう現状が問題。島全体で全体構想をもう少し重視していかなければ。

永田ウミガメ連絡協議会：

そうであれば、その屋久島ルールを観光事業者にきちんと説明すればいいのでは。

環境省：

全体構想が策定された後、より幅広い島民の方に屋久島全体のウミガメ観察のルールや方針をどう普及していくかが大事になる。

それぞれの浜で歴史が違う。永田で何十年をかけて積み上げてきたものをすぐに他の集落で運用するというのは難しい。

永田浜については、これまでの歴史を活かして、屋久島、鹿児島全体のモデルとなるような利用調整の方法を確立していくことが大事だと思う。

永田ウミガメ連絡協議会：

30年前にシカとサルを保護し、今は増えすぎて困っている。ウミガメも同様に30年後、延縄漁業などに影響がないという保障があるのか。

NPO 法人屋久島うみがめ館：

自分は、ウミガメを守って、増やして、利用するために活動を始めた。現在、ウミガメは増えている。

我々の上陸調査データをオーストラリアの世界的に有名な先生に見せたら、屋久島のウミガメは上下を繰り返しながら増加していくという結果がでた。ところがふ化調査のデータを渡したら、いつかは分からないが、ある時ガクッと減るといった結果になった。

屋久島のウミガメ調査はボランティアで続けるには度を超えている。若者が社会保障を受けられて生活していけるようなお金を行政が出して、ウミガメの調査をする専門家を育てられたら。そうでないと10年たったら誰もいなくなる。

環境省：

ウミガメが今後増えるかどうかという点については、分からないとしか言えない。昨年の協議会でも議論になったが、増えるかどうか分からないが、調査する体制は必要という結論になった。ウミガメを守りながら、利用し、そのお金で調査が続けられるような仕組みを作ればいい。

NPO 法人屋久島うみがめ館：

小笠原は明治の頃から資源管理をしていて、1年に100～200頭ウミガメを捕獲してきた。漁師からの買い取り価格は600円/kg。資源管理、個体数管理がしっかりしている。

永田ウミガメ連絡協議会：ウミガメが増えているということは漁業に影響があるということか？

環境省：ウミガメのここ二十数年のデータだけを見て、増えていると言い切れない面もある。

永田ウミガメ連絡協議会：法規制ができないということだから、団体受入れや予約窓口をどうするか、来年5月までにまたみんなで検討を進めていこう。

環境省：今後のスケジュールについて、年内中に各団体と個別に打合せをさせていただき、ある程度内容がまとまった1月頃に次回協議会を開きたい。

永田ウミガメ連絡協議会：学校のグランド照明が明るい。あれは町のものだと思うが、照明の方向を変えれば、多少影響が軽くなるかもしれない。町にも知恵を出してほしい。吹上浜は毎年最初の監視の日は町長も一緒に浜をまわる。町も意気込みをみせてほしい。

3) その他

環境省：今年の夏～秋にJALと亀田製菓が屋久島空港発着便と両社の職員対象にウミガメ募金キャンペーンをしていた。その募金を屋久島環境文化財団が受けることになったので、紹介させていただく。

屋久島環境文化財団：財団が募金を受けとるが、使い道はこの協議会の場で考えたい。

屋久島町：永田いなか浜の公衆トイレについて、町商工観光課が県と一緒に立て替えを行う。別途、説明会等あると思うが、報告しておく。

(了)